

## 教員研修モデルカリキュラム開発

### ○研究担当者挨拶

平成19年度に、独立行政法人教員研修センターによる標記プログラムに採択され、山口県教育委員会との連携のもと、各地教委の関係各位のご協力により校長等管理職研修の一環として実施しました「コミュニケーション実践学」は、おかげをもちまして多大な成果を得ることができました。本成果については、先般報告書をご送付しましたとおりです。重ねてお礼申し上げます。

今年度（平成20年度）は、各学校での研修主任教員等を対象としたコミュニケーション能力の向上を図る教員研修プログラムの開発が採択されました。つきましては、昨年度同様、山口県教育委員会のご協力をいただき、連携して取り組んで参りたいと思います。

情報が核となりコンピュータやネットワーク技術が重要な役割を果たす現代社会では、効率性、利便性などの価値観が優先されてきました。その結果、社会生活の面においては非常に便利かつ効率的になりましたが、一方で、コミュニケーションにかかわるさまざまな社会問題が多発、顕在化するようになってきています。教育現場においても不登校やいじめはもとより、ネット症候群、対人関係によるストレス、突発的な暴力や引きこもりなど、多くの事件や深刻な問題が発生していることは皆様も周知のことと思います。これらは、人間社会における日常のコミュニケーション活動の変化に起因するものと考えられ、法的拘束による規制だけでは抜本的な解決策は見出せないのが現状です。

本事業は、教員に必要とされる総合的能力としての相互理解のためのコミュニケーション能力の改善・向上を図るべく、初等・中等教育諸学校における研修主任教員を対象に、校内研修において「ファシリテータ(進行役)」としての役割を担う人材育成を基盤とした教員研修モデルカリキュラムの開発を目的としています。研修モデルは、受講者が「論理的に話すことができる」、「適切に自己主張できる」、「教員のコミュニケーション能力育成を目的とした校内研修の設計・実施ができる」ことが達成目標であり、「**Learning by Doing**(なす事により学ぶ)」が可能なよう、実践的なトレーニング手法を取り入れた内容で構成しました。研修内容の詳細については、先に謹呈しました『相互理解のためのコミュニケーション実践学』をご参照ください。

本事業が、山口県教職員のコミュニケーション能力の向上及び学校教育課題の解決、ひいては山口県教育全体の向上に少しでも役立つことを祈念しております。

山口大学教育学部 教授

教育学部附属教育実践総合センター長

林 徳治